

目次:

新年のご挨拶	1
波留室長 (METI)	
森下室長 (MOE)	
山根部長 (JARC)	
新年のご挨拶	1~2
JARC広報活動について	2
ELV機構の新たな取り組み	2
鉄スクラップ最新市況	3
編集後記	3



JAERAニュースレター読者の皆さま、明けましておめでとうございます。

本年が幸多き年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

日本ELVリサイクル機構 事務局一同

～ 新年のご挨拶を頂きました ～



経済産業省 自動車課
自動車リサイクル室長 波留 静哉 様

平成23年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、エコカー補助金特需、急激な円高の進行、燃費の向上など高まる環境指向からHV・EVなどの次世代自動車の登場など、市場が大きく動いた年でした。会員の皆様におかれましては、環境に左右されない自立的なビジネスモデル構築等に向けて、現在の事業のあり方等につき考える年だったのではないのでしょうか。冷静に観れば、人口減少時代に突入した日本は、今後、新車需要が大きく伸びることは難しいでしょう。しかしながら、循環型社会を支える担い手として解体業者の皆様が果たすべき意義と役割は引き続き大きなものがあると考えております。こうした状況の中で、経産省としては、まずは、自リ法制度の透明性確保の観点から違法業者対策や水際対策等の執行面の強化に取り組んでまいります。また、解体業界の中長期的な展望を見据え、レアメタルや材料リサイクルに着目した自動車リサイクルの高度化やリサイクル部品の需要喚起に向けた検討など、皆様との対話を続けながらなお一層努力してまいります。最後に、本年の皆様方の御健康と御多幸をお祈りいたしまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。■



環境省廃棄物・リサイクル対策部
リサイクル推進室長 森下 哲 様

頌春の候、皆様におかれてはますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より、適正な自動車リサイクルの推進に御協力いただき、厚く御礼申し上げます。昨年は、1月に自動車リサイクル法施行後5年を節目にした制度の点検が終了、ここでの提言には、使用済自動車の判断に関するガイドラインの策定等に加え、自動車リサイクルの更なる高度化や、次世代自動車等への対応が挙げられました。時を同じくして、昨年はハイブリッド車が急速に普及、電気自動車も市場に投入され、こうした自動車のリサイクルについても、各業界による取組の進展が見られつつあります。環境省では、平成23年度の重点施策の一つに「世界に通用する静脈産業の育成」を挙げ、静脈ビジネスの海外展開や国内循環ビジネスの基盤強化に取り組むこととしております。自動車に関していえば、リサイクル率ですでに95%に達している状況ですが、話題となっているレアメタルのみならず、銅や鉄に至るまで、ビジネスにつながるリサイクル高度化のあり方について、解体業界の皆さんにもご協力いただきながら、一緒に考えていきたいと考えています。本年も、どうぞよろしく願いいたします。■



一般社団法人 自動車再資源化協力機構
理事・業務部長 山根 保夫 様

新年明けましておめでとうございます。

一昨年の100年に一度といわれる金融危機に戸惑いながら、昨年はスクラップインセンティブ制度の効果により、1月から9月までの月間ELV引取台数は軒並み過去最高を記録し、10月以降S/I終了後の引取台数は当然の事ながら減ったものの、暦年の年間累計では過去最高の引取台数で2010年を終えました。また、自再協としては未処理エアバッグ類の後工程流出問題に取り組み、車上作動処理における適正化を強力に推進してまいりました。本件については今年も「不適正処理の撲滅」に向けた取り組みを継続してまいります。今年のELV引取台数は昨年のような状況は望めないでしょうが、株価はリーマンショック前の水準を視野に入れた分析もされ、現に1月のデトロイトモーターショーでは活気が出てまいりました。卯年の景気回復に期待するところではありますが、フロン類・エアバッグ類の処理においては台数の変動によらず、全て適正処理を行うことが地球環境問題への取組みに直結することと考えております。

本年も皆様との協力・連携を図り、引き続き全国の解体業者の皆様にも適正業務の輪を広められることを切に願っておりますので、どうぞよろしく願い致します。■

～ELV機構役員からのご挨拶～



日本ELVリサイクル機構
代表理事 栗山 義孝

全国のELV機構会員の皆さま、新年おめでとうございます。昨年年初の突然な酒井前代表のご逝去は、いまだに私たちの記憶に新しいところですが、私もELV機構の役職員一同、力を合わせてその混乱から一刻も早く立ち直れるよう頑張ってきました。その結果、皆様の絶大なるご協力、ご支援もあり、苦境を乗り切り現在に至ることができました。皆様のお支えに対し、改めて心よりのお礼を申し上げます。

さて、国内外の政治、経済環境は未だに不安定なままで、新年を迎えても改善の兆しがなかなか見えて参りません。一日も早い景気の回復が望まれますが、考えようによっては、このような逆風の中にあるときこそ、足元を固めて将来の発展に備える好機であると申せます。会員の皆さまそれぞれが、よりよい企業を目指して奮闘される中で、ELV機構は、会員の皆さまとの深い交流、日常の対話による情報交換を続けることにより、業界全体の高度化、高効率化の助けになる事業活動を進めて参ることができれば、必ずやよい結果が期待できるのと強く信じています。ELV機構役職員は、今年を更なる発展の年と位置付け、有益な事業活動の推進に全力を尽くす所存です。皆様の絶大なるご理解とご協力を切にお願い申し上げます。■



日本ELVリサイクル機構
副代表理事 伊丹 伊平

明けましておめでとうございます。
自動車解体業にイノベーションが必要だと言われて久しく、モータリゼーションの進展、成熟という環境の中で日々の仕事は尽きることがありません。経済の波に翻弄されながらも、目の前の仕事に全力投入していれば何とか道は開けてきたこの業界ですが、昨年来の次世代自動車の普及促進の急加速を見るにつけ「イノベーションが必要」とは先を見通した警告であったことを今更ながら思い知らされています。
使用済自動車のきめ細かい再資源化は資源小国である日本の自動車リサイクル産業の責務であり、その完璧な遂行を追求して行かなければならないのは当然のことで、それを自ら社会に宣言する時が来ているように思います。今後の業界環境、商品の変化に対応するためには、10年先を見据えて、日常の仕事の何割かを創造的な仕事へ配分することが必要になります。リサイクル技術の高度化には分別回収の高度化が絶対条件です。経済合理性、環境負荷軽減を実現し、素材産業と、また自動車メーカーと共に資源循環の要となり、わが国のリサイクル立国の一翼を担い、それをもって世界に、地球に貢献する、そのために、志を同じくする企業のより強い連携が求められます。■



日本ELVリサイクル機構
副代表理事 榎本 擴

会員の皆さま、明けましておめでとうございます。
お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨今の我が国の政治経済の動向は、内憂外患に直面し厳しい舵取りが求められております。市場の景気は先行きに自信が持てない状況となっており、我が国自動車解体業界も国内自動車販売の低迷で、使用済車の減少による各社間の争奪戦が全国的に発生しているように感じます。
この苦難に立ち向かうべく、日本ELVリサイクル機構も時代の移り変わりに合わせ、会員企業の経営基盤強化を始め、解体業の元気を取り戻す情報の発信が急務と考えます。このため、日本ELVリサイクル機構は会員企業の皆さまのご意見、ご要望の収集および、その実現に向けて行政に対する提言を行うことが業界のレベルアップになればと考えます。
最後に、会員各位の発展と皆様のご健康、ご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。■



日本ELVリサイクル機構
理事・総務部会長 木内 俊之

新年を迎えるにあたり一言ご挨拶申し上げます。
昨年は、機構にとって誠に多難な一年となり、誠に残念なことに、何社かの会員企業が、それぞれの理由により退会されるという事態が起こっております。そのようなことで、機構運営は、特に経済的に極めて逼迫しており、役職員力を合わせて無駄の排除、業務改善等に努力しているところです。現在の見通しでは、何とか今年度中に昨年度の赤字解消ができる見通しが立つまでに至っており喜んでおります。また、酒井前代表亡きあとの機構運営を引き継がれた栗山代表を中心に、新たに発足した常任役員会も頻りに開催され、機構の運営、新事業の展開、将来ビジョンの確立など、これからの機構運営の要となる事項につき合議を重ねているところです。
会員の皆さまが期待を寄せていただけるELV機構とすべく、役職員一同努力いたしておりますので、皆様方の不断のご理解、ご協力をお願い申し上げます。■

～ ELV機構の新たな取り組み～

ELV機構では、去る1月14日に臨時常任役員会を開催し、この春より取り組み開始の想定で、「企業連携による資源循環セミナー」の開催の検討を行った。昨今、世間で高い関心を集めている、レアメタルやレアアースの回収・再資源化に関し、機構内部で勉強会を行って機構の強みである会員ネットワークを利用した事業化の可能性を探ろうというもの。まずは機構の構成員である地域団体並びに機構の理事、ブロック長等を対象とした小規模セミナーを3月中旬に開催し、最新情報の提供並びに機構ならびに関係団体関係者の関心度合いを把握し、ポジティブな反応があれば6月のELV機構社員総会の前後に、全会員を対象とする大規模セミナーの企画を行うこととし、そのための準備委員会の構成メンバーの検討を開始した。■

事務局

JARC広報活動への協力お願い

自動車リサイクルのしくみ・流れについてはこちら

<http://www.jarc.or.jp/> <http://www.jarc.or.jp/m>

公益財団法人 自動車リサイクル促進センター (特定非営利活動法人)

インターネット自動車リサイクル

クルマを売るときは・・・

クルマを売るときは・・・

廃車にするときは・・・

リサイクル料金の確認やお問い合わせは・・・

<http://www.jars.gr.jp/>

03-5673-7396

JARC（自動車リサイクル促進センター）では、自動車ユーザーに対する一層の理解促進活動の一環として、リサイクル料金の使途などに関するポスターやチラシを作成し関係者にその活用をお願いすることとなった。JARCが行ったユーザーに対する調査では、自動車リサイクル制度の認知度が9割に達しているものの、リサイクル料金の使途などに関する理解促進が必要と判断されたことから、ポスター・チラシを作成し配布することとなった。これらは、完成次第各地域団体並びに部品団体経由で会員各位に配布され、更に希望がある場合は、JARCに申し込むと会員に送付される予定。なお、各団体へは1月末～2月初旬に送付される見通しとのこと。会員各位におかれても積極的にご活用いただきたい。■

・・・何となくおかしいけど決して笑えない話・・・

- <http://www.youtube.com/watch?v=rxYnxHWqu7Q>
- <http://www.youtube.com/watch?v=o9FIJY2iWCI>
- <http://www.youtube.com/watch?v=HKFFucouX2g>
- <http://www.youtube.com/watch?v=OCH0BWLjikY>
- <http://www.youtube.com/watch?v=qivQOITXimw>

左に挙げたインターネットのURL(YOU TUBR)に掲載されている動画は、何れもエアバッグを作動させた瞬間を撮影したものです。それぞれの動画が撮影された背景や撮影の意図は明らかではありませんが、エアバッグの威力を改めて認識させられます。よい子の皆さまには、「決して真似をしないように」と言っておきましょう。■ (編集子)

2

1月第2週の鉄スクラップ価格動向

スクラップの有力指標・関東鉄源テnder、平均3万8601円で1万7千トンを落札。前回比5431円上伸。

関東鉄源協同組合（理事長＝渡辺淳丸和商事社長）は14日、鉄スクラップ共同入札輸入（テnder）を実施し、H2を1トンあたり平均3万8601円で1万7000トンを落札した。前回比5,431円の値上がり。落札平均価格が3万8000円を上回るのは、昨年4月の38,752円以来、9カ月ぶりとなる。この落札価格は近年、スクラップの有力指標となりつつある。

渡辺理事長は「今回の落札価格が急伸した主要因は、韓国がこの価格水準での購入姿勢に動いたこと。足元の相場は強く、この流れに沿ったものと言える。昨年暮れからの関東地区の鉄スクラップ相場から見た場合、突出して高いわけではないにしても、しばらくは強基調の相場が続くそう」とコメントした。

東京製鉄が15日付で値上げ改定、昨年12月22日以来東京製鉄は15日付でスクラップ購入価格を九州・高松・宇都宮工場で500円、岡山・高松工場で1,000円値上げ改定した。関東鉄源の入札実施日だった14日の発表。改定後の特級価格は岡山海上・陸上3万8000円、九州海上・陸上37,500円、宇都宮38,000円。

関東地区 関東鉄源の入札結果に加え東鉄の動きに電炉が追随、値上がりムード～

関東地区の鉄スクラップ相場は、14日の関東鉄源の入札結果や東京製鉄宇都宮工場の15日からの500円値上

げを受け、値上がりムードとなっている。15日付以降に値上げを行った電炉は10社近くで、新日鉄君津やJFE京浜もスクラップの購入価格を引き上げた。これにより、H2の実勢価格は35,500～37,000円中心、高値38,000円見当となっている。浜値は36,500～37,500円でなお強基調。

東海地区 15日から4社が値上げ、浜値も強基調～

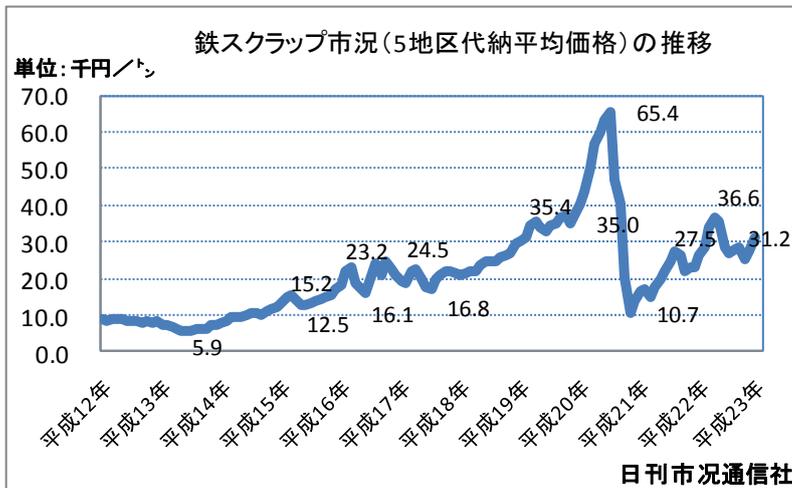
東海地区では、15日付で大同特殊鋼が一律1,000円値上げ、中部鋼鉄がヘビーとドライを1,500円（その他1,000円）値上げ、トピー実業と山口鋼業が一律500円値上げと、有力メーカーが相次いで値上げした。韓国や中国からの引き合いが強まっており、東海地区の湾岸浜値も強基調だ。H2の実勢価格は35,500～36,500円中心、高値37,000円見当となっている。浜値は35,000～36,000円。

関西地区 年明けの横ばいから再び値上がりの市況展開に～

関西地区は、年明けしばらくは様子見横ばいで推移していたが、他地区と同様に、関東鉄源の入札結果と東鉄の値上げを受けて再び値上がりの市況展開となっている。H2の実勢価格は37,500～38,500円（一部高値は39,000円）どころとなった。

商社筋などでは「電炉製品の需要は芽えない状況だが、海外マーケットが落ち着かない限り、強基調の市況が続くのではないか」という見方が一般的だ。■

（※各地の価格動向は1月14日時点のもの）



1月第2週(14日)の国内スクラップ市中実勢価格

		H2	気配
関東	北関	35,500 ~ 37,000	値上がり
	南関	35,500 ~ 37,000	値上がり
名古屋		35,500 ~ 36,500	値上がり
関西	大	37,500 ~ 38,500	値上がり
	姫路	37,000 ~ 37,500	値上がり

～ 編集後記 ～

- ◇ 前年からの長期化する経済不振、1月末の前代表の突然のご逝去、未曾有の酷暑、一か年半に渡るスクラップインセンティブの終了など、色々出来事が多かった2010年も終わり、新たな年が巡ってきた。論理的に考えて、新年に全ての事象が改めるわけではないが、なんとなく期待してしまうのが人情。「皆様にとって、幸多き年になりますよう」と念じてしまう。
- ◇ 昨年からの積み残し課題で、今早急に対応を迫られるのがエアバッグの適正処理問題ではんはかろうか。使用済自動車の適正処理徹底こそをその役割の最優先取り組みと位置付けるELV機構としては、当然のことであろう。制度上の問題等

- ◇ があるが、まずは、機構会員が襟を正して適正処理にまい進されるようお願いしたい。
- ◇ 私事で恐縮ですが、編集子の愚息が、昨年12月中旬、人道支援活動参加のためにハイチへ旅立っていった。2月いっぱいまで現地活動を続けるという。彼からのメールによると、現地の状況は辛酸を極めているようだ。従来から最貧国の一つと言われていた国を30万人を超える死者がでた震災が襲い、丁度一年経過した今、復興どころかコレラなどの疫病が蔓延し、目前で幼い子供たちが命を落としているとのこと。我々として何かができるのか、考えてみる必要があるのではないのでしょうか。■（編集子）

《編集・発行》

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構

〒105-0004

東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル

Tel: 03-3519-5181

Fax: 03-3597-5171

E-mail: jaera-office2@clock.ocn.ne.jp